

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

Q17

3日以上、同じ状態が続いているよ

特定の子どもに身体を寄せたり、教員におんぶや抱っこを求めたりするのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

子どもの
気持ちに共感

原因はこれかな？（背景を推測する）

- ・Dちゃんが大好きなんだもん。
- ・〇〇先生と一緒にいないととても不安。
- ・ぼくをわかってくれる人のそばにいないと不安。
- ・特に何をするかわからない時は、不安が強くなる。

※相手が嫌がっているのがわからないので、大好きな友だちに身体を寄せているのかもしれません。

※園生活に慣れず、不安だらけの時は、先生におんぶや抱っこを求めて、その場をしのいでいるのかもしれません。



<なぜそのようになるのでしょうか>

- 見通しが持てないと不安になる。
- 苦手な活動や複雑な活動は、一人でやれる自信がない。
- みんなが大勢いる場所は、うるさくてザワザワし、落ちつかない。

おんぶや抱っこを求めてくる子どもは、「甘えん坊」のように思われがちですが、緊張と不安が強い子どもではないでしょうか。相手の意図を推測したり、状況を瞬時に捉えたりするのが苦手な特性のため、不安が高まりやすく、その不安に対処することも難しいのかもしれません。

また、特定の子どもに身体を寄せたり、追いかけたりするのは、自分をわかってくれる味方だと思っているのかもしれません。しかし、相手の気持ちに合わせて行動をとることが苦手なので、結果的に相手がいやがる行動をとってしまっているのかもしれません。

好意的に感じ、頼っていく場面がみられたら、相手の子どもにも、「近くに寄って来るのは、Aちゃんが頼りにしているからかもしれないよ。」等と話し、相手の子どもの不安感や負担感を和らげてあげる必要があるでしょう。そして、Aちゃんには、担任等が間に入って「〇〇ちゃんは、少し離れてほしいみたいよ」とさりげなく指導したいものです。

3 手立てを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

<段階を踏んで、おんぶや抱っこをしなくても過ごせるように工夫していく>

無理におんぶや抱っこをあきらめさせようとしても、しがみついて「おんぶ」へのこだわりがひどくなる場合があります。まずは、子どもの要求を聞き、おんぶや抱っこをさせたとしても、必ず、しなくても過ごせるようにする工夫を同時に考えていきます。

<段階的な取組>

- ① おんぶをしていて安心してきたら、 ⇒ ②ひざの上の抱っこに変えていく。 ⇒
- ③ 幼児の手をにぎりながら、隣に座らせる。 ⇒ ④先生は、幼児から椅子を離す。
- ⇒ ⑤先生から離れた椅子に座っても「安心グッズ」を手にしながらいられる。 ⇒
- ⑥「安心グッズ」を手にしながら、みんなの活動に参加できる場所がないか、探していく。

<指導のポイント>

- おんぶや抱っこをし続けたい。おんぶや抱っこに代わる「安心」を探していく。
- 子どもが近づいてきたら、つい抱っこをしてしまうようなくさはしない。
- 一人でも安心していられる手がかりを園として探していく。先生方が同じ対応をする。

4 振り返り・評価をする

★ 家族もよろこんでいるよ。

笑顔がたくさん、見られるようになったかな

支援は、有効だったかな？

記録を読み返し、振り返りをしよう。

不安な時は、お気に入りの「ミニカー」を手に握りしめていました。みんなが静かに集中する絵本の読み聞かせの時間は、先生が側にいなくても、椅子に座って落ち着いて聞くことができました。おんぶをしなくても大丈夫な条件を探ることができました。



仮説の修正

まとめ

先生が不安を察知しておんぶや抱っこに応じる仕草をしたり、手を差し出してしまったりしては、おんぶや抱っこは、いつまで経っても「してもらえるもの」「ご褒美」となってしまいます。そのようにならないためには、必要最小限にとどめる工夫と計画が必要です。これは、担当一人が考えることではなく、幼稚園・保育所等全体で考えていきます。

「共感・受容」は、余計なことまで手を出すことはありません。子どもの自立に向けて何をどのようにすべきか、先生の子どもとの適度な距離感が求められます。

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

3日以上、同じ状態が続いているよ

Q18

トイレに行ってもでないのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

原因はこれかな？（背景を推測する）

子どもの
気持ちに共感

<原因>

- ① 家のトイレでないと落ち着かないのでは……
- ② 排尿のタイミングが合わないのでは……
- ③ 集団の中での緊張感があるのではないかな……
- ④ 生活リズムが整っていないのでは……
- ⑤（男の子の場合） 男子用便器を使ったことがないのでは……
- ⑥（男の子の場合） 家の洋式便器で座ってしていたのでは……

<仮説>

- 子どもの自立心を育てるためには、他人が強制しても身に付かないであろう。
- 自分で自分の衝動をコントロールする、自分で自分を管理することができる力が身についていくことに喜びを感じられるであろう。
- 心が通い合うと、安心感や安定感を持ち、場の違いや、緊張感等がほぐれ、また、生活リズムが定着すれば、トイレに行くタイミングを自ら考えられるであろう。
- 乳幼児期に自分の要求を沢山受け入れられた子どもは自律性が養われるだろう。



3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

- 出ないときは、出なくても良いことを伝えて安心させる。
どれくらいの間隔で排尿しているのか、観察していく。
子どもの様子から、今、トイレに行きたいのでは…その時、どんなサインがあるかを把握していく。サインがわかったら、その時にトイレに誘ってみる。
いろいろなタイミングで誘い、排尿することができたら、その時に認める。
出なくても叱ったり、疑ったりしない。
- 家と同じような模様をつけてみる。
 - ・好きなキャラクターのシールをつけてみるなど、トイレを『好きな場所』に変える。
- 男子用便器を使っている友だちの様子を見せる。
 - ・家庭にも協力してもらい、男子便器を使用する経験を増やしていく。
- 家庭に協力してもらい、洋式便器で立って排尿する経験を増やしていく。

4 振り返り・評価をする

★ 家族もよろこんでいるよ。

笑顔がたくさん、見られるようになったかな

支援は、有効だったかな？

記録を読み返し、振り返りをしよう。

○原因がわかったら、何ができるのかを考え、子どもにあった方法を探しましょう。

○子どもが困っていることは何なのか、先生が困っていることは何なのかを考えてみましょう。



仮説の修正

まとめ

なかなかできない子どもに対して、トイレで上手にできるようになるのはいつか、楽しみに待っているという気持ちで、急ぐことなく接していき、ここでしてほしいということを、信頼関係のもとに繰り返し指導していくことが大切です。できないことができるようになることが子どもにとっては喜び、自信につながります。

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

Q 19

3日以上、同じ状態が続いている

トイレを怖がって入りたがらないのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

子どもの
気持ちに共感

原因はこれかな？（背景を推測する）

排泄の自立は最も基本的なことですが、入園したての頃は幼稚園のトイレに慣れないために発達障害のある子どもに限らずトイレを嫌がる子どもはいます。

4・5月の2か月が過ぎてもトイレに行くのを嫌がり幼稚園から家に帰ると1番にトイレに駆け込むA君。家庭からトイレについての問い合わせがあり、幼稚園でトイレに行くように声を掛けて欲しいと連絡を受けました。

<困っている事>

トイレの入り口までは行きますが、一緒に入ろうと手をつないでも、トイレが怖いのか、頑なにドアの前で嫌がり、排泄が終わった友だちが出てくると、保育室と一緒に戻ってしまいます。

一日保育の中でも、排泄をせずに我慢をしてしまい、どうしても我慢が出来ずにモジモジと体を動かしている様子が見られます。本人はトイレに行きたいものの、先生に言葉で伝えられないために、時にはおもらしをしてしまうこともあります。しかし、はずかしさからか、担任が気付くか、友だちから指摘されるまでそのまま活動をしてしまうこともあります。

<その背景を推測してみました>

園では 登園→トイレ→朝の会→トイレ→リズム体操→トイレ→活動→トイレ→お弁当→トイレ……

生活の流れの中にトイレタイムを日課にしておくようにし、クラス全員で行くようにします。その際、担任と担任以外の2名以上で見ると見ます。

<なぜトイレが怖いのか？>

- ・園のトイレに慣れていないためなのか？(トイレの使い勝手がわからない)
- ・聴覚過敏があるために、大勢でトイレを使う時の水の流れる音や友だちの声が反響する音を不快に感じるのか？
- ・トイレの環境(雰囲気)が嫌なのか？
- ・知らない友達や集団でトイレに入るのが嫌なのか？
- ・こだわりがあり、家のトイレ以外で排泄をした経験が少ないからか？
- ・家以外のトイレで怖い思いをしたことがあるためか？



3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

A君も時間はかかったものの、友だち関係にも目を向けられるようになり、マイペースではありますが、園生活に慣れてきました。担任も一人一人の性格を理解出来るようになり、個々の気になる事やできるようになった事を記録にとり、自分一人だけで見ていくのではなく、先生同士連携を取りながら観察をしていきました。すると、子どもの様子が見えてきて、取組も進んできました。

- ① 家には洋式トイレはあるが、男の子用のトイレがなく、使い方が分からなかった。
- ② お母さんは、男子用トイレの使い方を教えることができなくて困っていた。
- ③ 集団生活を送るうちにトイレに慣れ、保育士の手を借りて、ほめられながら少しずつ上手になっていく喜びを味わわせていくようにした。
- ④ 「幼稚園のトイレは『明るくてかわいい』」とトイレに入る度に知らせていくようにした。(怖くないよ)
- ⑤ トイレは友だちとの会話の場でもあるが、言葉がでないため保育士が言葉を掛けていった。
- ⑥ 「失敗をしても先生は叱らない」ことを理解させていった。(園全体で子どもを見守っていく)
- ⑦ 地域(市)の専門機関と連絡をとり、困りごとの指導への協力(巡回相談)のお願いをして、幼児期の今、学ばなければならない基本的な生活習慣を考えていくことにした。

排泄は生理的に必要な要件で基本的な生活スキルの一つと言えます。排泄の自立は最も基本的で重要な課題です。親は「これができなければ困る」という苛立ちを感じてしまいやすいものです。トイレの失敗体験が心の傷として残らないよう、また、その体験が恐怖心にならないよう、トイレも一つの部屋と考え、明るく衛生的な環境を整え、励まし、できた事に対して喜びを持てるようにします。トイレは怖い所ではないことを伝えていくことが大切です。

4 振り返り・評価をする

記録を読み返し、振り返りをしよう。

★ 家族もよろこんでいるよ。

支援は、有効だったかな？

笑顔がたくさん、見られるようになったかな？

家庭と連絡をとり、子どもが安心できるように、時間をかけて取り組んでいくことが大切です。生活環境の違いから、使い方がわからなかったり、一人でトイレに入るのが怖いと感じたりしている場合があるので付き添う事も大切です。

集団でトイレに行くと、一人一人の様子を確認できない事があります。担任等と信頼関係を作り、明るいトイレの環境を考えていくよう心がけて行きたいです。



仮説の修正

まとめ

担任はこんなことに気付いてないようです。トイレに行くのを嫌がる子に「トイレに行きたくない？」と聞いていますが、本当は行きたいと思っても「行きたくない」と答えたり「トイレに行った？」と聞くと「行った」と答えたりすることが少なくありません。

無理強いせず、子どもの気持ちを受けとめ安心させることで怖いと思っている原因を取り除くことができます。子どもを安心させることから始め、継続して様子を見ていくことも大切です。

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

3日以上、同じ状態が続いているよ

Q20

初めての活動に、しり込みしてしまうのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

原因はこれかな？（背景を推測する）

子どもの
気持ちに共感

保育園生活3年目の4歳男の子Aちゃんは、電車の玩具で遊ぶのが大好きでロッカーの上を走らせて遊んでいることが多いです。

でも、毎日の活動や行事はもちろんのこと、初めてのことには全く参加しようとしません。

Aちゃんにとっては、経験のない新しいことは予測ができず、恐怖感や不安が大きく、その不安に対処することも難しいのです。そのため安心できる電車遊びにこだわるのだと考えられます。

集団の関係性は複雑で刺激が強く、どのように行動してよいのかわかりにくいので、Aちゃんは、新しいことへの挑戦を避けて、自分だけの遊びに没頭しているのではないのでしょうか。

Aちゃんはいろいろなこだわりはありますが、パニックを起こしたり、周囲の人を巻き込んだりすることはありません。できるだけAちゃんが安心して過ごせる一人遊びを保障していくことが大切です。



好きな遊びを通して、人とやりとりすることが楽しいと思える成功体験を重ね、徐々に新しい活動を促すことで解決につながると考えます

3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

新しいことや変化することに、恐怖感や不安を感じる人が多いAちゃんには不安な気持ちを認めつつ、簡単な課題であっても粘り強く説明し、励まし、ほめてやる気を促していくことが大切です。また、Aちゃんのわかる方法で事前に予定を伝えるようにします。

たとえば毎日、その日の日課を説明します。目で見て分かるように図、絵、写真などを使用します。担任がこのルールを守ることで、信頼関係が築けAちゃんは安心します。

いきなり新しいことに取り組んだりせず、行事などは計画的にスモールステップで成功体験をたくさんしながら、ゆっくり丁寧に進めていきます。

他の子どもと別のことをしていても同じ空間(集団)の中にいられるAちゃんなので、信頼できる担任と一緒に遊ぶことで「人と遊ぶことは楽しい」と思えるようになってきます。担任は他の子どもを誘ってAちゃんと一緒に遊ぶようにしたり、集まりなどにも必ず誘ったりして、徐々にみんなと一緒に参加できるようにしていきます。

専門機関によるアドバイス(たとえば巡回相談など)を受けることや、ケース会議などで園全体での共通理解を深め、個別に計画を立てて進めていくことが重要です。

4 振り返り・評価をする

笑顔がたくさん、見られるようになったかな

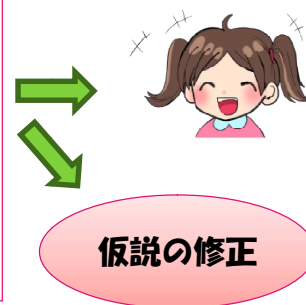
★ 家族もよろこんでいるよ。

支援は、有効だったかな？

記録を読み返し、振り返りをしよう。

園全体での共通理解を深め、周りの大人がAちゃんの不安な気持ちを認めつつタイミングをみて声かけをしてきた中で、目を合わせたり、質問に対してうなずいたりする姿がみられるようになってきました。

担任と信頼関係が築け、活動や集まりの前には、無理強いせず声かけや説明を繰り返してきた中で、短時間ですが、みんなと一緒に参加する姿がみられるようになりました。



まとめ

「みんなと同じであたりまえ」ではなく、特に幼児期の発達には個人差が大きいので、長い目で捉えていくことが大切です。Aちゃんだけが特別ではなく、一人一人が特別なのです。ただし、Aちゃんの特徴に早く気づき専門機関と連携をとっていくことも重要です。

発達をしっかり捉えたいうえで、ありのままのAちゃんを受け入れ、どの部分でどのように困っているのか、周りの大人が共通理解をして進めていくことが大切です。

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

3日以上、同じ状態が続いているよ

Q21

1番になれないと大騒ぎをするのは？

2 仮説を立てる

原因はこれかな？（背景を推測する）

子どもの
気持ちに共感

保育園生活2年目、3歳になったAちゃん（男児）はトイレ・トレーニングが始まると同時に、いつも誰よりも一番でトイレに行きたがります。「トイレはみんな順番に並んで行きます。」と先生が伝えても、その行為は続きました。そして、活動中でも頻りにトイレに行きたがります。更に、同じ場所のトイレに入りたがるこだわりもあります。また、順番にこだわったり、定位置の場所にこだわったりする傾向は、いろいろな活動場面で見られます。

また、Aちゃんは、何かの原因で自分の定まった場所が確保できないと大騒ぎをします。落ち着くまでには、しばらく時間を要します。



《背景を推測する》

- 「順番」を伝える先生の言葉掛け（指示）が理解できていないか、あるいは、聞く力が不十分なのか、言葉の意味や、順番が必要な意味を理解することが苦手だと考えられる。また、物事にはルールがあり、それを知るなどの社会性を身に付けていくことに困難さが認められる。
- Aちゃんにとって、園生活でトイレは次の活動へ移るための節目となっているのか、気持ちを切り替える場所になっているようにみえる。
- （同じ場所の）トイレは“自分だけの安心した場所”となっているのではないか。安心な場所で、気持ちを整理しているのかもしれない。
- 変更があるとパニックを起こすのは、Aちゃんが対応に困ってしまう結果で、新しい場面を苦手としていること、それを上手に伝えられないことがうかがえる。
- 自身の気持ちの立て直しには、ほかの子どもよりも時間が掛かる。

以上、①言葉や場面を汲み取っていくことを苦手とし、人とのかわり方がわからない。②活動と興味が限られ、同じ場所や順番などこだわりを持っていること等々から、Aちゃんには自閉的傾向があるのではないかと考えた。

3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

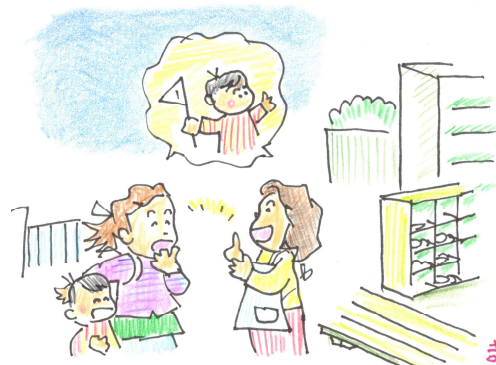
Aちゃんの保育園生活が少しでも過ごしやすく、困難さを軽減するために市の保育課に相談。保育園の加配制度を利用してAちゃんに支援者を付けるようにする。園長・主任・クラス担任など、まずAちゃん自身の理解を深めること、気づきを共有することが必要だと考え、その支援者にAちゃんの行動記録を毎日とってもらった。その記録と報告を土台にカンファレンスを重ね、Aちゃんが園生活をしやすくするためには何をどうすれば良いのか、支援の方向性を決め、個別支援計画をたてることにした。具体的には、次のような手だてが考えられる。

- ① 周りの保護者や子ども達にも協力してもらうこと
- ② 保護者（特に母親）との連携を大切に、話し合いを重ねて、同時に家庭への支援をすること
- ③ 言葉だけでは次の行動につながりにくいので、支援者が写真や絵カードを利用し、順番にやることを説明すること
- ④ 支援者がAちゃんの気持ちを事前に読み取ること
- ⑤ パニックになったら、気持ちを落ち着かせるための「困いのある場所」を確保すること
- ⑥ あやふやな物言いは理解できないので、言葉の掛け方は言い切り型「泣いても怒っても駄目です」等と簡単にわかりやすく話すこと
- ⑦ 園内だけのカンファレンスだけでは限界があるので、地域の専門機関例えば、「自閉症サポートセンター」等の定期巡回支援を利用し、専門指導員に現在の指導内容を確認すると共に、今後の指導を仰ぐなど地域資源を活用する。

4 振り返り・評価をする

笑顔がたくさん、見られるようになったかな

★ 家族もよろこんでいるよ。



家庭支援を重ねながら、Aちゃんの気持ちに寄り添うことを大切にし、見守りを続けることを通して、苦手だったことが少しずつできるようになっていった。

Aちゃんの変化に、母親はとても喜んでいった。

また、支援者のかかわりによってAちゃんの特性を知ることが進み、周囲の理解が深まっていった。そして、本人が安心して物事にかかわれるようになり、園が好きになっていった。

仮説の修正

まとめ

周囲の支援者は、その子どもの特性を理解すること、そのままの姿を受け入れ、そこからその子どもの願いを知ることが必要です。何が困っているのか？ どうしたいのか？ Aちゃんの思いを知り、園内では、園長・主任・担任・支援者、時には他の職員との共通理解を広げ、家庭との連携を深め、一貫した対応をしていくことが望まれます。Aちゃんの思い（「一番になる」）を保障することが支援方針となり、家庭にもつなげた努力から、安心して通園している親子の姿が見られるようになりました。

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

Q22

3日以上、同じ状態が続いているよ

活動に入る前に気持ちがこじれていると、やれることでもやろうとしないのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

子どもの
気持ちに共感

原因はこれかな？（背景を推測する）

- ・好きな電車の本をもっと読んでいたい。
- ・お遊戯会の練習は、何をするかわからないから不安だ。
- ・お遊戯会でやる踊りは、覚えられないからやりたくない。

- ※ 一つの遊びや活動に夢中になってしまい、次の活動になかなか切り替えられないのかもしれない。
- ※ 無理に従わせようとして、気持ちがこじれ、この気持ちを引きずったままなのかもしれない。



<なぜそのようになるのでしょうか>

○気持ちが切り替えられない。

こだわりがあると、関心の向いた活動や遊びには熱中しやすく、それを中断して別の活動に関心を向けることが困難になります。

○見通しが持てないと不安になる。

次の活動がどんな内容なのか、どこでやるのか等、わかっていないと不安になります。

○苦手な活動なので、取り組みたくない。

次の活動がお遊戯会の練習とわかっていても、大勢の中が苦手だったり、大きな音が嫌いだったりして、取り組みたくないために切り替えようとしません。

不安なことが生じないように、できるだけ新しいことは始めようとせず、一度始めたことは変更しないでやめないという「こだわり」の特性が関係しているかもしれません。

「変えない・やめない・始めない」 「一定・繰り返し・継続・安定」

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

Q23

3日以上、同じ状態が続いているよ

わざと乱暴なことばや汚いことばを言うのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

原因はこれかな？（背景を推測する）

子どもの
気持ちに共感

- ・ぼくが言ったことば（「うざい」・「きもい」）で、Bちゃんが泣いてしまい、先生におこられたけれど、どうしておこられたのかよくわからないよ。
- ・C君にいじわるをしたつもりはないよ。
（「おまえは何もできないな」）
- ・ぼくの言うどのことばがいやなのか、みんなが教えてくれないとわからないよ。（「太りすぎじゃないの」・「その髪型かっこ悪いね」）

※ わざと乱暴なことばを言っているように見えたり、聞こえたりしますが、実は、相手の気持ちがわからず、言ってしまうのかもしれない。



<なぜそのようになるのでしょうか>

○衝動的にひどいことばが出てしまう

乱暴なことばを言ったり、大人びたことばを言ったりしてしまうのは、発達障害の特性の一つである、「衝動性」が原因かもしれません。

衝動性が抑えられないために、カッとなった時は、思わずひどいことばを口に出してしまうのかもしれません。暴言を吐いていますが、強い悪意があるわけではありません。

○相手の気持ちが理解できない。

人の気持ちを想像したり、自分に置き換えて考えたりすることが苦手なため、見たままや思いついたままをストレートに言ってしまうのかもしれない。

※発達障害の特性であることが理解されず、「乱暴な子」「こわい子」「残酷な子」「冷たい子」「失礼な子」等と誤解を受けやすいです。

3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

<言ってもよいことばと、そうでないことばの区別がついてくるようにする>

- 「今言ったそのことばは、よくないよ」と、その場で淡々と教え、相手にあやませる。感情的に叱ると、先生の同じ反応がほしくて、何度も乱暴なことばを使うこともあるからです。
- 興奮している場合は、少しおさまってから、事実関係（経緯）を調べ、仲直り等をさせる。
- 言われた相手にも、「いじわるで言ったのではないから許してあげよう」と言って、あやまったら許すように促す。

<強く叱らない・がまんできたらほめる>

- 「相手の気持ちがわからないの」と言っても通じません。叱られる理由もわからず困惑する子どももいるくらいです。また、叱られてばかりいると、友だちから、「あの子はいつも叱られている子」と見られてしまい、自尊感情も損なわれます。逆に、カッとなった時に乱暴なことばを言わなかった時は「よくがまんできたね」とほめてあげましょう。

<ことばづかいのルールづくりをする>

- 「相手のいやがることばは使わない」というルールではわかりにくいので、「バカ」「死ね」「うざい」「きもい」等のことばは、使わないというように具体的なことばをあげて決めます。

4 振り返り・評価をする

★ 家族もよろこんでいるよ。

笑顔がたくさん、見られるようになったかな

支援は、有効だったかな？

記録を読み返し、振り返りをしよう。

学級で、「チクチクことば」（使ってはいけないことば）を出し合って教室に掲示しました。思わず言ってしまった時は、掲示物の前に連れて行って指導しました。定着には時間がかかりそうですが、少しずつ、ルールが身についたように感じています。ことばの使い方は、学級の子どもたち全員で取り組むと効果があがることもわかりました。お手本となる子が増えていくからです。



仮説の修正

まとめ

初めは、悪気がなく発した乱暴なことばに対して、大人や回りの子どもたちが過剰に反応することにより、その反応を見てみたかったり、気を引きたかったりして、わざとそのことばを言うことがあります。ですから、誤学習をさせないためには、感情的に叱ったり、無理にすぐあやませようと迫ったりしないことが大切です。「わざと・・・」の行為を繰り返す子どもについては、注意を自分に向けてほしいという欲求があると捉え、よく話を聞いてあげたり一緒に遊んであげたりすることが必要かもしれません。